

ガザ封鎖から 3 年 :

封鎖が人々の暮らしに与える影響

2010 年 6 月 10 日

JVC エルサレム事務所 福田直美



1. 4 年目に入るガザ地区の『封鎖』とは

2007 年 6 月にイスラエルによるガザの「封鎖」が始まってから、今月で 3 年が経過します。1967 年以来イスラエルの占領下に置かれたガザから、全てのユダヤ人入植地およびイスラエル軍が撤退したのは 2005 年夏。その後もイスラエルは、陸、海、空を含む境界線を実効支配し、あらゆる移動の制限を行ってきました。そして 2007 年 6 月 14 日にハマスがガザを武力で制圧して以降、イスラエル政府は、人道支援物資、商業物資のガザへの輸出入や人の移動をより厳しく制限し始めました。ガザで行われてきた産業は大打撃を受け、多くの人々が仕事を失い、ガザの経済は壊滅状態に陥りました。また、食料品も含む全ての物資の輸入が制限されたことにより、ガザでは物資が不足し、また値段も高騰しています。電気や燃料も搬入を制限された状態が続いており、人々の生活に大きな影響を与えています。2008 年末から始まったイスラエル軍による大規模な軍事攻撃は、多くの家屋、学校、病院、インフラ設備、農地などを破壊しましたが、大規模な復興が必要となった後も、その以前から続く封鎖の状況は変わっていません。

2. 封鎖の現状

2007 年 6 月から始まった「封鎖」により、ガザへの物資の搬入が大幅に制限されています。ガザに入ってきたトラックの月の平均台数を比較すると、2007 年 1～5 月が 12,350 台だったのに比べ、2010 年 2 月は 2,236 台と、5 分の 1 以下でしかありません。

封鎖が始まって以降、ガザではあらゆる種類の物資が不足し、辛うじて置いてある全ての商品の値段が高騰しました。2008 年、まさに「今日食べるものすら手に入らない」という状況になり、次第にエジプトとガザの境界線の地下トンネル経由で輸入される物資がガザの人々の生活を支え始めました。しかし、トンネルに経由で入ってくる物資の価格はとても高く、貧しい人たちの手が届く価格ではありません。「トンネル経由で入ってくる物資がなくなったら、ガザの人々は飢え死にしてしまう」という声もガザでは多く聞きます。「シャンプーはいいけれどもコンディショナーはだめ。子どもたちのおもちゃもだめ。教科書の印刷に必要な紙もだめ」と、ガザの知人は言います。人々の日々の生活で何が必要かは、イスラエル当局が判断することなのです。



人々の生活に大きな影響を与える電力や燃料も、ガザへの搬入が制限されています。ガザの発電施設は十分な量の

発電をすることができず、今日まで、98%のガザの人々は日々8～12 時間の停電を経験しています。特に学校の試験期間中は、停電では勉強することもできないため、子どもたちが夜勉強するために電気のある家に集まって皆で勉強したり、また、ろうそくの灯りの下で勉強するということも全く珍しくありません。電力が不足していることで、病院では手術を遅らせざるを得ないケースが発生したり、また下水処理施設も十分に稼働できないためにガザでは今も一日 6～8 千万リットルの処理されていないまたは一部処理されていない汚水を、地中海へと垂れ流しせざるを得ない状況が続いています。

一方、ガザからの「輸出」も厳しく制限されています。2005 年、イスラエルとパレスチナ間で交わされた「移動と出入りについての協定 (Agreement on Movement and Access)」では「イスラエルはガザから一日 400 台の輸出を許可する」ことになっていますが、それでも 2007 年 6 月以前、ガザから輸出される家具、衣料品、農産物や金属製品などを積んだトラックの一日の平均台数は 60 台でした。そして封鎖が始まって以降は、ガザからの輸出がゼロに近く制限されました。

また、原材料が入ってこないために、封鎖が始まる前は 3,900 あった ガザの産業は、2008 年 3 月時点で 130 のみが稼働している状態にまで減りました。加えて、2008 年末からの軍事攻撃により、約 1,500 もの工場や商店などが被害を受けました。生産に必要な原材料が入ってこないこと、工場が破壊されたこと、そして輸出の機会がないことから、これらの産業が消滅しかけています。ガザでは、「封鎖が始まってから工場が閉鎖され、仕事を失った」「以前はイスラエルに働きに行っていたが、ガザの外に出ることができなくなってしまった」「仕事に使っていたトラックを攻撃によって破壊されて以来、仕事ができない」「農地が破壊されてしまい、農業ができなくなってしまった」などという声を多く聞きます。



農業や漁業に関わる人々も封鎖による影響を受けています。2009 年 6 月の時点でガザの農地の 46% が、イスラエル軍によるアクセス制限のため立ち入ることができない、もしくは軍事攻撃によるダメージのために耕作ができない状態にあります。2009 年 1 月から 3 マイル (約 5km) までと漁業海域をさらに制限された漁業においては、2009 年の漁獲量が 2008 年と比べて 47% も減りました。これら全ての要因が、ガザの食料の価格高騰につながっているのです。

2010 年 1～3 月のガザの失業率は 38.6% と高いままで、働き盛りの 30 歳以下の失業率は 57% となっています。失業の問題は、人々の心理にも大きな影響を与えています。「大学を出て資格や技術を得ても、仕事が見つからない。子どもへ与える食事や服を買うことができない。この不満が溜まって、特に男性はうつ病になってしまう人も多い」とガザの知人は言います。飢え死にしないギリギリの状態を封鎖によって維持される一方、人々が身体的にも心理的にも閉塞感を感じ窒息状態になっていくという意味では、ガザはまさに「巨大な刑務所」であると言えます。

ガザでは近年のイスラエルによる軍事攻撃で約 12,000 もの家屋が破壊または被害を受けましたが、セメントや鉄鋼など建設資材のガザへの搬入がほとんど許可されないことから、家屋の再建の目処は立っていません。ガラスやセメントを市場で見かけることもあります、それらはトンネルから輸入されたものであって、「以前手に入ったセメントの 4~5 倍の値段」がするそうです。破壊された建物から瓦礫を運び出して粉々にし、砂やセメントを混ぜて再度生成した「軽量コンクリートブロック」の製造が行われるようになりましたが、これに使用するセメントも現在はトンネル経由で入ってくるもののため高価で、また強度が弱く崩壊の可能性もあるとも言われています。



3. 封鎖が人々の生活に与える状況

手に入る物の種類が限られる。全ての物資の物価が上がる。仕事を失う。電気が十分でない。家の修復ができない——封鎖はこれらの問題を引き起こし、人々の生活をより厳しいものにしています。ガザで食料危機状態にある人々の数は、2009 年には 60%以上に増加しました。この影響を最も受けるのが、弱い立場にある子どもたちです。ガザで栄養失調の子どもたちの治療を行っている NGO、「人間の大地」のアドナン医師は言います。「貧困、失業、栄養失調の子ども数の増加は、直接の因果関係にあるのです。そしてその原因がイスラエルによるガザの封鎖であることは明らかなです」。「人間の大地」では、0 歳から 5 歳までの栄養失調の子どもたちの治療を、栄養食の提供、母親への栄養や衛生に関する教育などを通して行っています。2010 年 1~5 月（25 日まで）の間にハンユニスの栄養センターを訪れた子どもたちの数は、1,171 人。軍事侵攻直後だった前年同時期（2009 年 1~5 月）の 1,475 人と比べればやや減ってはいますが、2007 年、2008 年の同時期の数がそれぞれ 1,197 人、1,228 人だったことから、子どもたちの健康状態がここ数年、良くなっていないことは明らかなです。

JVC はこれまで「人間の大地」を通して、ナツメヤシ、セモリナ粉、お米、豆など、栄養失調の子どもが家庭で食べる、栄養価の高い乾燥食材の提供を行ってきました。2008 年 4 月に配布を開始した当初から、ガザで入手できるものを購入してきていたのですが、同年 10 月、物資の不足により食材の価格が大きく上がったことで、代替となる食品へと変更し、数も減らさざるを得ませんでした。なんとか配布は続けられたものの、2008 年末からの軍事侵攻、そして人道支援物資も含む更なる輸入の制限から、2009 年 1 月、再び食材を購入することができなくなりました。ようやく食材を購入できるようになって配布が再開されたのは 4 月。しかしその配布も同年 7 月に中断せざるを得ませんでした。新鮮で質の良い食材を積んだトラックがガザとイスラエルの境界線上の検問所で何ヶ月も待たされ、食材に虫が湧いてしまったのです。なんとかガザで手に入るものを探し出し、ガザ内で加工できる製粉所を見つけ、同年 12

月から配布を再開することができました。

乾燥食材の配布に立ち会った時、栄養失調の子ども之母親の1人は言いました。「うちの台所にある食材はこの配布される食材くらい。あとは、市場で残り物のトマトやじゃがいもをもらってくるの」。2010年5月、ハンユニスの栄養センターで17人の母親に聞き取りをしたところ、9人が「家に現金収入がないので野菜を買うことができない」と答えました。17人中、子どもの父親が仕事をしているのは3人だけでした。野菜を買うことができないという母親は、「食べ物は親戚に支援してもらっている」と答えていました。市場が閉まる時間に行き、売れなくなった野菜を譲ってもらうという声も聞きます。



サブリーンちゃん

2009年9月に重度の栄養失調と診断され、センターに通院。生後7ヶ月で4.5kgしかなかった体重は、11月には3.8kgへ、12月には3.6kgとなってしまった。父親は数年前に怪我をして以来、ジュース売りの仕事を失ってしまった。それ以来一家に収入はない。食べ物は親戚の家に頼っているという。

モハンマド君

2009年6月、センターに来た時に「超」重度の栄養失調と判断された。5ヶ月半で体重は3.8kg。父親イスラエルに仕事に行っていたが、2002年以降ガザから出ることが出来なくなり仕事を失った。今では日雇いで野菜の収穫や道路工事などの仕事をしているが、「全く仕事がない週も多い。野菜の収穫の仕事がある時は、時々野菜を持って帰ることができるのが助かる」。



ガイダちゃん

2009年1月末、停戦後にセンターを訪れた時は8ヶ月で5.6kgだった。2ヶ月後には6.3kgにまで増え、順調に回復していた。お父さんはやはり、以前はイスラエルで仕事をしていたがここ8年間は失業中。

モハンマド君

2008年12月、センターにやってきた時は6ヶ月で5.2kgだったが、1月末、停戦後に再開されたセンターに再びやってきた時には5kgに減っていた。3月には徐々に回復し6.5kgになっていた。「支援物資を受け取っているけれども6人の子どもには十分ではない」。お父さんは、以前は電気製品の部品を売る仕事をしていたが、封鎖により物が不足し仕事を失って2年以上が経つ。「攻撃が始まる前から、仕事なんてずっとない」



JVC が栄養強化牛乳とビスケットを配布しているガザの幼稚園では、その牛乳とビスケットが一日で最もきちんと栄養が摂れる食べ物である子どもたちも少なくありません。「朝ごはんは何を食べた？」と子どもたちに聞くと、野菜や果物の名前は挙がってきません。子どもの家に行くと、台所にはしなびたトマトが2つだけ、ということもありました。この事業の担当者は、「幼稚園児の年齢は、基礎的な身体成長にとっても大切な年齢。この時期に十分かつ栄養のバランスのよい食事が採れなければ、長期的に成長を妨げることにともなりかねない」と懸念します。「父親が働いていない子どもがほとんど。今では、日雇いの道路掃除などの仕事が見つかればまだいい方だ」と幼稚園の先生は言います。

4. 人々が求めるのは「封鎖の解除」

2010年5月末、人道支援物資を積んでガザの港への入港を試みた“Gaza Freedom Flotilla”の船舶がイスラエル軍に攻撃され、少なくとも9人の死者、ほか多くの負傷者が発生しました。この船舶は、軍事攻撃によって破壊された家屋の修復・再建に必要なセメント等の建設資材、車椅子等の医療機具、水システムの修復に必要な材料等を積んでいたといえます。これらはガザで非常に必要とされながらも、イスラエル政府が管理する検問所経由ではほとんど搬入を許されない物資ですが、このような封鎖を打ち破る「アクション」はそもそも、封鎖がなければ必要がなかったことなのです。

2008年12月、国連人道問題調整事務所はガザの封鎖について、「生活を広範囲にわたって弱体化させ、インフラ設備と基礎サービス大規模な破壊をもたらし、人間の尊厳の深刻な危機を引き起こした」と警告しました。そして2010年6月、上記船舶へのイスラエル軍の攻撃に関して、これまでもガザの封鎖を「集団懲罰」とであると非難してきたジョン・ホームズ人道問題担当国連事務次長は、「イスラエルによるガザの封鎖は2007年に始まった当初から、容認できず、不要で、また（イスラエルの「ハマス政府を崩壊させる」という意図とは）逆効果を生むものであった」とし、封鎖の解除の必要性をあらためて訴えました。

ジュネーブ第4条約第55条には、「占領国は、利用することができるすべての手段をもって、住民の食糧及び医療品の供給を確保する義務を負う。特に、占領国は、占領地域の資源が不十分である場合には、必要な食糧、医療品その他の物品を輸入しなければならない」とあります。国際法上、占領権力であるイスラエルはガザの住民の健康、教育、食料などの権利の保障も含めて福祉を確保する義務があるにも関わらず、封鎖はまさにその逆の状況をガザの人々に強いているのです。これまでと同じように封鎖が続く限り、ガザの人々の上記の権利が守られることは不可能です。現在、ガザの71%の人々が、外部からの支援に頼らざるを得ない状況に置かれていると言われています。しかし、これはガザの人々が望んでいる状態では決してないのです。ガザの人々は言います。「私たちに一番必要なのは、封鎖が解除されることだ」。支援に頼らざるを得ない状況は、本来ならば自らの力で生き、家族を養うことができるはずであり、またその意思を強く持つガザの人々の尊厳を損い続けています。まずは封鎖が解除され、復興に必要な物資の搬入が可能になり、そしてガザの社会がガザの人々自らにより開発され、経済もまた自ら建て直し活性化することが可能になる日まで、ガザの人々の困難は続きます。



日本国際ボランティアセンター

〒110-8605 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 6F TEL

03-3834-2388 / FAX 03-3835-0519

<http://www.ngo-jvc.net> info@ngo-jvc.net